

救急車の適正利用

9月9日「救急の日」。今回は「LIM」で救急の日を取り上げていますので、それに合わせた企画でお送りします。

◆ 救急車の運用はいまやパンク寸前です

救急車の出動要請で近年問題になっているのは、出動回数の増加とその適正使用です。

例として東京消防庁管内で平成27年度内の出動件数はおよそ76万件。1日平均では2,000件を上回り、42秒に1回の割合で出動しています。

これは高齢者の増加により転倒や急病での出動が増えたことが一因とされてます。しかし出動要請の理由の中には首をかしげてしまうようなものも多くあり、およそ半数が入院等の必要が無く、タクシーなどで対応可能とされる軽傷者です。こうした出動の必要が無い軽傷者への出動の為に、重篤な傷病者の搬送が遅れてしまうことが懸念されています。

◆ あきれてしまう出動理由

- 飲み過ぎて歩けなくなってしまった
- 深爪をしてしまった
- タクシーが来ないので家まで送って欲しい
- 歩くのが面倒臭い
- 蚊に刺された
- 紙で手を切って血が出た



◆ 救急車を呼ぶべきか迷ったら問合せを！

救急要請は「119番」ですが、一部の自治体ではこれとは別に専門のオペレーターが救急要請の必要があるかどうかの問い合わせ対応と、その後の手配を行う電話窓口を設けている場合もあります。

どうしたらよいか分からない場合は電話で確認を！

#7119 (東京都・大阪府・奈良県)
#8000 (小児救急医療電話相談事業)

※「#8000」は各都道府県の相談窓口につながります

また、総務庁消防庁のホームページでは救急要請する目安や通話時に必要な内容を簡単なマニュアルとして配布していますので参考になさってください。

総務庁消防庁救急車利用マニュアル : http://www.fdma.go.jp/html/life/kyuukyusya_manual/index.html

